

思いを、考えを、まっすぐに伝える
強い意思を新聞広告で表明



矢野野矢 野矢野矢

クリエイティブディレクター、箭内道彦さん。テレビ番組の司会やラジオのパーソナリティー、音楽雑誌「風とロック」の編集長、ロックイベントの主催など、活動領域は広い。広告クリエイターである箭内さんの一面を知らない人は、「何をしているのかよくわからないけど、なんか時代の先を行っている人」というイメージではないだろうか。金髪で派手なジャージーを着て、カジュアルな雰囲気。若いのかオジサンなのか、年齢を感じさせない、カッコいい大人。もうひとつは広告会社で働く、人気広告クリエイターだ。独立して事務所をつくり、やりたいことがやれる態勢を整えた。もちろん、今も数々の広告を手がけている。その一つがパルコの新聞広告だ。

広告の言ひ、その通りに前へ進む

「LOVE HUMAN」というキャッチコピーも安田聖愛さんをモデルとして起用することもすでに決まっていた。広告のテーマは若い才能を見つけ続けるパルコだったが、クライアントも僕も、震災と重ね合わせて見られることからは逃げられないと覚悟してつくりました」

その点からも、広告の中で使った「新しい時代を、君とつくる」というフレーズに強こだわった。「震災が起きて以降、安全なのか、そうでないのか、いつになったら家に帰れるのか、誰も約束もしてくれないし何も言ひ切ってくれない。調べてみたら違いました、すみません、ではないコミュニケーションを世の中が求めていると感じていました。だから、言ひ切りたいと思っただけです。新しい明日を、君とつくる」ではなく、つくる。寄り添って行くのではなく、宣言をして、その通りに進んでいきたいという思いを込めてつくりました」

矢内さんが手がける新聞広告のメッセージは熱くて深い。今年2月には、自身がプロデューサーするミュージシャン、高橋優さんの歌詞のフレーズをニューヨーク・タイムズ紙に広告として出稿。「きつとこの世界の共通言語は英語じゃなくて笑顔だと思っ」という歌詞が英訳され、掲載された。僕の中では新聞「意見広告」。新聞は意思表明をするのに一番ふさわしいメディアだと思っ」



2011年5月9日付朝刊掲載



2011年5月25日付朝刊掲載

今回のパルコの広告は、「コピーだけではなく、ビジュアルからも強い意思を放つ。モデルは安田聖愛さん。箭内さんらしさが詰まった仕事だろう。けれど、若者以外の世代にも確実に響いた。新聞をめくり、初めて見る強い意志のある女の子の写真と「新しい時代を、君とつくる」というメッセージに出会った瞬間、鬱々とした心の中に、新鮮な風が吹き抜けるのを感じたのは、私だけではないだろう。」

文：山下 雅 写真：斎藤 肇



箭内道彦さん
やないみちひこ / 1964年福岡県生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。挿絵家を経て、2003年「風とロック」を設立。主な仕事に、セクシィ「Get Old with Me」、グリコ「ビスコ」、タイリン2011、「サントリー」ほろよい、タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE」など、TOKYO FM-JFN系 ラジオ「風とロック」、パーソナリティー、6月よりNHK Eテレにて「音楽リアル 物楽シリーズ」編集をずっと見ているTV」を開設。9月14日（水）から6日間、福島県内を6カ所後継するイベント「LOVE福島 風とロックSUPER野馬追」を開催する。